



日邦産業株式会社

(証券コード：9913)

2022年3月期 第1四半期 決算補足資料

2021年 8月3日

代表取締役社長

岩佐 恭知

22/3期 1Q 連結業績 (1)



(単位：百万円)

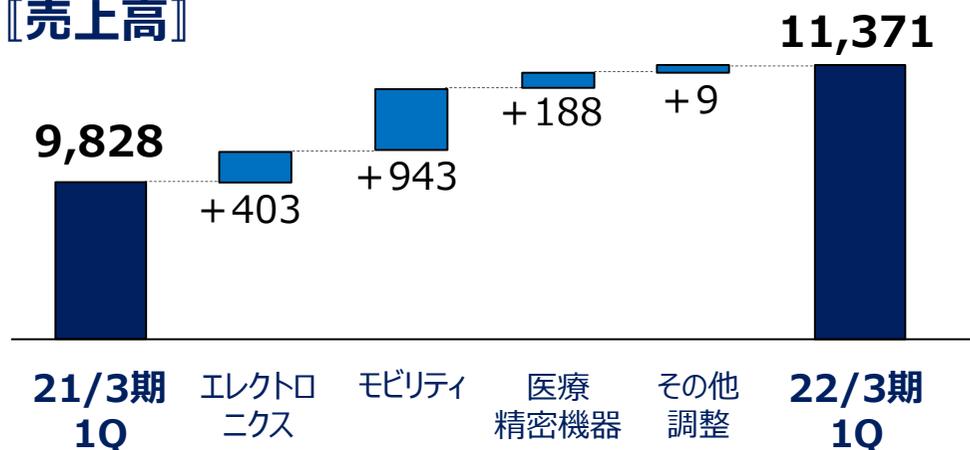
科目	21/3期 1Q	22/3期 1Q	前年同期比	増減額
売上高	9,828	※ 8,801 11,371	— 116%	— +1,543
営業利益	49	392	800%	+343
経常利益	40	411	1,028%	+371
四半期純利益	28	286	1,021%	+258

※「収益認識に関する会計基準（以下「収益認識会計基準」）」等を22/3期1Qより適用しております。

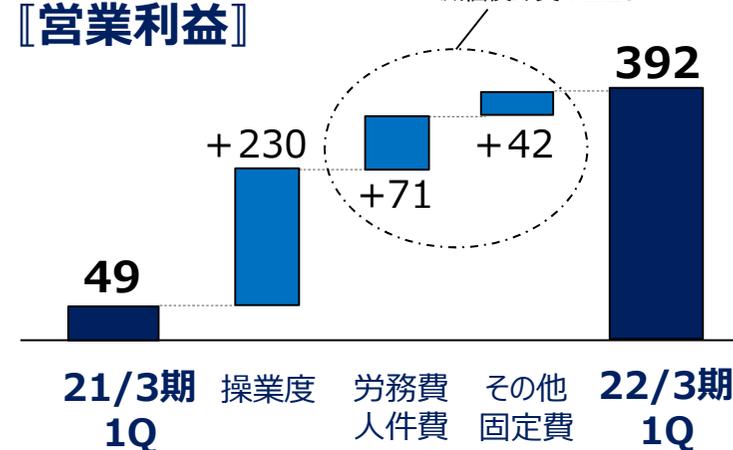
売上高の下段および下記グラフの売上高は、前年比較のご参考として収益認識会計基準適用前の売上高を記載しております。

内、メキシコ製造事業撤退の効果
 ・労務費/人件費：△54
 ・減価償却費：△25

【売上高】



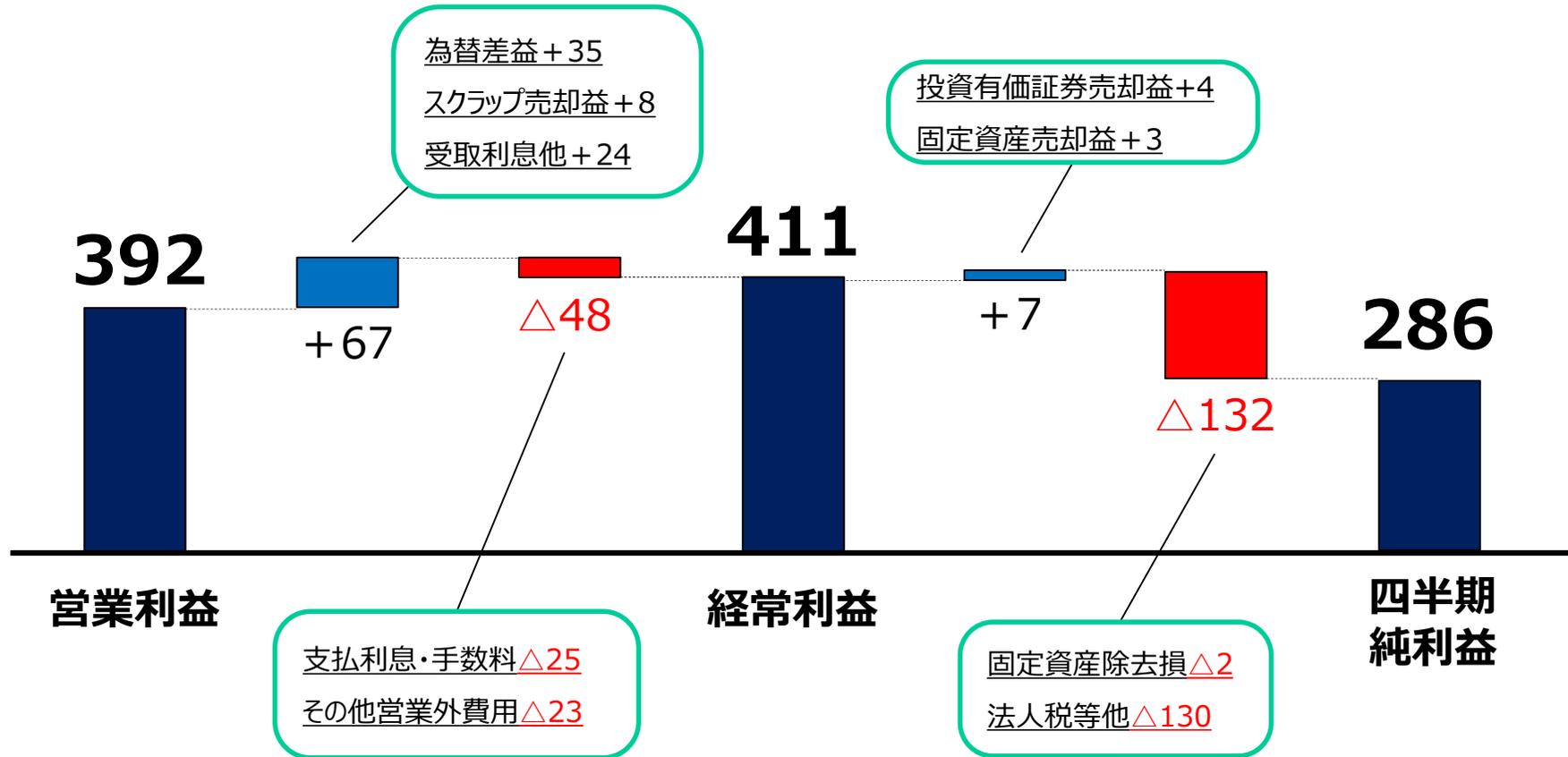
【営業利益】



22/3期 1Q 連結業績 (2)



(単位：百万円)



22/3期 通期業績予想



～2Qの減産影響と3Q以降の回復の見通しより、通期業績予想は据え置いております。～

(単位：百万円)

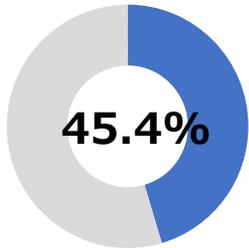
科目	22/3期 1Q	22/3期 通期予想	22/3期 進捗率	通期業績予想と年間配当金について
売上高	8,801	35,000	25.1%	<p>1. 通期業績予想 半導体の供給不足、新型コロナウイルス感染症の拡大による生産活動の減産影響が2Qで発現するものの、3Q以降の回復を見込んでいるため、2021年5月14日に公表しました通期業績予想を据え置いております。</p> <p>2. 年間配当予想 通期業績予想を据え置くことから、年間配当金「1株＝20円」につきましても、据え置いております。</p> <p>※本通期業績予想値は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいた予想値であり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と異なる結果となる可能性があります。通期業績予想の見通しに修正が必要と判断される場合は、改めて公表させていただきます。</p>
営業利益	392	1,200	32.7%	
経常利益	411	1,130	36.4%	
当期純利益	286	800	35.8%	
年間配当金	—	20円		

セグメント別業績（エレクトロニクス）



売上高構成比

※セグメント別業績の売上高は、収益認識会計基準適用前の売上高を記載しております。（単位：百万円）



増収

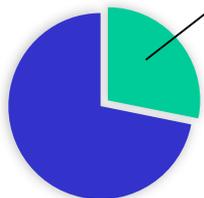
増益

	21/3期 1Q累計	22/3期 1Q累計	前年同期比	増減額
売上高	4,659	5,062	109%	+403
営業利益	323	331	103%	+8

1Qの業績概況

- ・ スマートフォン関連部材の受注とアセアン向けの半導体材料の受注は堅調に推移。
- ・ ハイエンド向け配線板材料は堅調に推移したが、汎用配線板材料の受注が減少。
- ・ ベトナム工場のドライフィルム事業は顧客の生産調整により受注が減少。
- ・ 半導体ウエハ研磨用キャリア事業の受注は好調に推移。

売上高の進捗



1Q進捗
27.2%

	21/3期	22/3期(見通し)	前年比	増減額
売上高	18,266	18,600	102%	+334
営業利益	1,044	1,200	115%	+156

通期の見通し

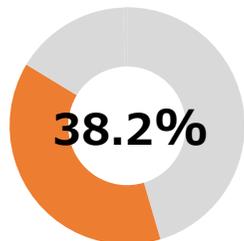
- ・ スマートフォン関連部材の受注は引き続き堅調に推移する見通し。
- ・ 汎用配線板材料の受注は段階的に減少していくが、ハイエンド向けの配線板材料の受注増加でカバーできる見通し。
- ・ ベトナム工場のドライフィルム事業は、クリーンルーム改修工事による加工能力の増強により、需要の拡大に備えた準備を完了。

セグメント別業績 (モビリティ)



売上高構成比

※セグメント別業績の売上高は、収益認識会計基準適用前の売上高を記載しております。(単位：百万円)



増収

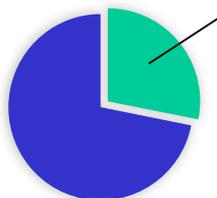
増益

	21/3期 1Q累計	22/3期 1Q累計	前年同期比	増減額
売上高	3,797	4,740	125%	+ 943
営業利益	40	307	768%	+ 267

1Qの業績概況

- 自動車部品メーカーの生産計画が回復し、受注は堅調に推移。
- メキシコ製造事業撤退に伴い業績が改善。
- 半導体の供給不足による影響は軽微で、合成樹脂の原材料不足の懸念リスクは、顧客、材料メーカーとの連携により回避することができた。

売上高の進捗



1Q進捗
27.1%

	21/3期	22/3期(見通し)	前年比	増減額
売上高	15,963	17,500	110%	+ 1,537
営業利益	485	950	196%	+ 465

通期の見通し

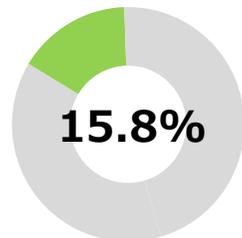
- 主要顧客の生産計画は、引き続き堅調に推移する見通し。
- 半導体の供給不足、新型コロナウイルス感染症の拡大、合成樹脂の原材料不足の懸念リスクが継続し、先行き不透明な状況。

セグメント別業績（医療・精密機器）



売上高構成比

※セグメント別業績の売上高は、収益認識会計基準適用前の売上高を記載しております。（単位：百万円）



増収

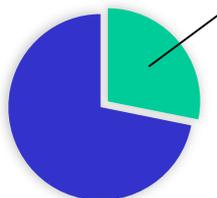
増益

	21/3期 1Q累計	22/3期 1Q累計	前年同期比	増減額
売上高	1,407	1,595	113%	+188
営業利益	△50	△12	—	+38

1Qの業績概況

- ベトナム工場のプリンター関連部品は、コロナ影響による主要顧客の生産停止の影響を受け、受注が大きく減少。この影響が大きく響き、黒字転換ならず。
- タイ（コラート）工場とフィリピン工場のプリンター関連部品の受注は堅調に推移。
- タイ（コラート）工場の医療機器部品の受注も堅調に推移。

売上高の進捗



1Q進捗
26.6%

	21/3期	22/3期(見通し)	前年比	増減額
売上高	5,877	6,000	102%	+123
営業利益	△43	+0	—	+43

通期の見通し

- 半導体の供給不足、新型コロナウイルス感染症の拡大による生産活動の減産影響が2Qで発現するものの、3Q以降は回復の見通し。
- 医療機器部品の受注は引き続き堅調に推移する見通し。



参考資料

22/3期 1Q 連結貸借対照表



(単位：百万円)

科目	21/3期	22/3期 1Q	増減額
流動資産	13,727	14,889	+1,162
現預金	2,940	3,777	+837
受取手形及び 売掛金等	7,810	7,629	△181
たな卸資産	2,460	2,667	+207
その他	517	816	+299
固定資産	10,977	10,324	△653
有形固定資産	8,239	7,499	△740
無形固定資産	121	115	△6
投資その他の 資産	2,616	2,709	+93
資産合計	24,705	25,214	+509

科目	21/3期	22/3期 1Q	増減額
流動負債	12,549	12,315	△234
支払手形及び 買掛金	7,596	7,693	+97
短期借入金等	2,258	2,156	△102
その他	2,695	2,466	△229
固定負債	3,159	3,174	+15
長期借入金	515	471	△44
その他	2,644	2,703	+59
負債合計	15,708	15,489	△219
資本金	3,137	3,137	-
資本剰余金、利益剰 余金及び自己株式	5,587	5,782	+195
その他の包括利益 累計額	270	803	+533
非支配株主持分	1	1	△0
純資産合計	8,996	9,724	+728
負債・純資産合計	24,705	25,214	+509

日邦産業株式会社

経営企画部 水口、藤浪

電話 : 052-218-3161
E-Mail : ir@nip.co.jp
HPアドレス : <https://www.nip.co.jp/>

将来見通しに関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保障を与えるものではありません。また、将来における弊社の業績が、現在の弊社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。また、業績等に関する記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、弊社はその正確性、安全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、弊社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

なお、本業績見通しにおける為替レートは、1米ドル = 105円、1タイバーツ = 3.5円で計算しています。